

今後の感染症対策とコミュニティづくりについて考えるための事前アンケート 結果まとめ

調査目的	新型コロナウイルス感染症によるコミュニティ協議会への影響について、その詳細を把握するとともに、休館中にコミュニティ協議会が実施した様々な工夫を把握・共有することにより、今後の感染症対策とポスト・コロナのコミュニティづくりのあり方の検討につなげることを目的に実施した。
実施時期	7月2日（木）～7月16日（木） ※メール配布・回収
配布数／回収数	配布数：16 協議会／回収数：16 協議会
調査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3月からの長期閉館中に生じた悩みや課題、大変だったこと、気づいたこと 2. 3月からの長期閉館中に新たに取り組んだこと、検討したこと 3. 閉館中の経験を踏まえ、今後、取り組みたいこと、検討したいこと、市や研連への提案

1. 3月からの長期閉館中に生じた悩みや課題、大変だったこと、気づいたこと

【ポイント】

- 総会や役員会等の会合が出来ず、協議会運営に関する意思決定・合意形成に影響がでた。
- 閉館中は最小人数で対応するため、一部の役員へ負担が集中していた。
- 閉館期間の変更が複数回にわたり、関係各所への都度の連絡を行う業務が役員に集中し、負担であった。
- 利用されていない期間の施設の保守・管理の負担も少なくなかった。
- すべてのコミセンで事業が中止・延期になった。また、今後の見通しが立たず、下期以降のスケジュールを作成することができない協議会が多い。
- 閉館により地域団体の活動場所が喪失し、各団体の活動に多大な影響が生じていた。また、活動拠点がなく、団体メンバー間や団体間のコミュニケーションの機会喪失につながっている。

(1) コミュニティ協議会の運営に関すること

- ・ 多くのコミュニティ協議会において、総会や定例の役員会等の開催ができなかった。そのため意思決定に困難を抱えていた。
- ・ また、集合して議論や役割分担を行う機会が限られていたことから、一部の役員に負担が集中していた。
- ・ また、閉館期間の延長に伴い、各所（運営委員・協力員、利用団体・利用者、地域の関係団体等）への連絡が必要になるが、その負担が大きかったという回答も複数あった。その中でも、LINEなどを用いてそれまでの文書・電話・メール以外の方法で連絡体制を構築している例もあった。
- ・ 一部では、閉館が続くことで「不安を感じた」といった回答もあり、コミュニティセンターの閉鎖に伴い、運営委員・協力員のなかで、やりがいや人とのつながりの喪失につながるといった影響も確認できた。

主な回答内容（抜粋）

【総会・役員会等の運営について】

- ・ 定例（毎月第1月曜日）の役員会の他に臨時役員会を開催（吉祥寺東）
- ・ コロナ禍にともない活動自粛で、住民総会、運営委員会が開催出来ず、役員の選出時期が遅れた。（西久保）
- ・ 6月の運営委員会で、運営委員と協力員に総会資料を配布し、地域住民には掲示板やHPで公表することを決定し、承認を得た。（本町）
- ・ 会議ができない。合意形成が難しい（西部）
- ・ 住民総会を書類の形でやり、通常より（関わる）地域の人に限られた。（けやき）

【一部の運営委員等への負担集中について】

- ・ 臨時役員会を10回開催し、結果として役員の負担が多くなった。（吉祥寺西）
- ・ 年度末で役員の交代があったにもかかわらず、議事決定権のある運営委員会を行うことができなかったため、急遽、三役会や新旧役員会で対応したが、役員の負担が想像以上に大きかった。（中央）
- ・ 協議議案の多い年度末、期初と重なったため、通常の運営委員会を行えず書面形式としたため協議がスムーズに行えず、一部役員の負担がとて大きくなってしまった。（八幡町）

【運営委員・協力員内のコミュニケーションについて】

- ・ 決定事項を運営委員や利用団体、地域住民へ報告するための書類を作成し、印刷・配布するなど役員の負担が大きかった（桜堤）
- ・ 緊急時の連絡方法として作っていたLINEのグループを使用し、連絡・周知は問題ない。（本宿）
- ・ 運営委員全員に連絡する場合、連絡手段がメール・ショートメール・FAX・TELと多様なため連絡担当者が大変だった。ただ、コロナ以前のような紙ベースよりは良くなった。（西部）

【利用団体・利用団体とのコミュニケーションについて】

- ・ 度重なる閉館延長や会議中止等の連絡（窓口担当・運営委員）が、手段も異なり大変だった。（手段として、メールやメッセージ、LINE、電話、自宅への資料配布等）（八幡町）
- ・ 予約した団体へのキャンセルの連絡が大変だった。（本宿）
- ・ 休館のお知らせをするためのポスター、留守番電話など休館日が延長されるたびに作り直し、貼り直し、録音し直しがあり、緊急事態宣言中でも集まり作業するのはとても不安だった。（本宿）
- ・ コミセンニュースの月刊全戸配布が維持されていることが、繋がりを維持する手段として大きな役割を果たした。（吉南）

【運営委員・協力員への心理的負担等について】

- ・ 緊急事態宣言中は、集まることも出来ず、また伝える事項もなく、何も活動できず、疑心暗鬼が生じた。（吉祥寺北）
- ・ 長い休館で活動を休んでいるので、不安な気持ちがある。（緑町）

(2) コミセンの管理に関すること

- ・ 上記(1)での回答と同様に、閉館期間の変更に伴う各所への連絡・周知に関して苦労したと回答する協議会が多かった。
- ・ また、閉館期間中の施設の保守について、利用されないことで、備品にカビが発生したり雑草が伸びきったりと通常よりも保守に苦労があった点が指摘されている。また、それらの対応も、一部の役員で行うなど通常よりも少ない人数で対応していた様子が見える。その他、コミセンが閉鎖していることで不法投棄や無断駐車・駐輪などもあり、それらへの対応についても苦労した点が挙げられている。
- ・ また、閉館中の時間を活用して、通常保守以外の修繕などを行いたいという意向を持っていたとしても、日程調整や費用面の課題から実現できなかった、という回答もあった。

主な回答内容（抜粋）

【閉館期間の変更への対応について】

- ・ 6回に渉る閉館時期の変更は、HP、掲示板への掲示で対応した。使用不可の団体には事前に電話で説明した。(吉祥寺東)
- ・ 閉館延長の決定がいつもぎりぎり。周知方法がホームページ・ポスターと限られ、どの程度周知できているかが計りづらかった。(本宿)
- ・ 市の決定事項に関しては直前の連絡、また公表にタイムラグがある場合が多く、利用者からの問い合わせ対応が難しかった。(中央)
- ・ 閉館の延期が段階的になされたため、その都度 利用者からの問い合わせも多く運営委員への周知が大変だった。(御殿山)
- ・ 何度かの休館延長により、告知ポスターおよび留守電変更が多く煩雑であった。告知掲示板が少なく(コミセン掲示板4ヵ所・個人宅6ヵ所)、告知が完全でない。ホームページの改訂等を担当できる人が少なく難渋した。(吉祥寺西)
- ・ 利用申込者に対し、延期、閉館のお知らせは、電話で連絡を行い大変であった。(けやき)
- ・ 閉館の急な延期が何度も続いたが、市からコミセンへの入館制限(人数、時間)を要請されたため、利用者への周知が非常に困難だった。また、入館制限しているにもかかわらず、市からはメール等で返信が必要な要請が多く、対応に苦慮した。(中央)
- ・ 閉館の急な延期が続き、利用者への予約キャンセルの通知が大変だった。(西部)

【閉館期間中の施設の管理等について】

- ・ 使用されない備品にカビ発生・雑草が伸び放題になり、蚊の発生がひどかった。(吉祥寺北)
- ・ 清掃担当者の電気の消し忘れ、エアコンのつけっぱなし等が多かったため、点検の負担が大きかった。(八幡町)
- ・ 業者(新聞・ダスキン・宅配等)とのやり取り時間調整の負担が大きかった。(八幡町)
- ・ 不法投棄や無断駐車・駐輪、子どもが駐輪場へ入って遊ぶ等あり、対応に追われた。(八幡町)
- ・ 改修工事終了後の開館準備作業に必要な整備や片付けなども、人数を最小限にして役員中心で行った。(桜堤)
- ・ 休館期間中に、通常保守以外の修繕ができれば良かったが、日程調整や経費の面で難しかった。(吉南)

(3) コミセンの事業に関すること

- ・ すべてのコミュニティ協議会において、「事業は中止・延期になった」と回答している。それによって、今年度中にすべての事業を実施することが難しくなった点や、参加費を徴収する事業の中止に伴う返金手続きが煩雑である点などが困った点として挙げられている。
- ・ 特に今後の見通しが立たないことで、下期以降の事業計画が立案できないという課題が多くの協議会から指摘されている。

主な回答内容（抜粋）

【事業の中止・見直しについて】

- ・ 主催教室は開講を延期、主催事業も閉館中は中止・延期となった。4カ月に及ぶ閉館により今年度中に事業計画が達成できるかが課題である。（吉祥寺東）
- ・ 主催・共催事業は全て中止したので、寂しさしかない。（吉南）
- ・ 当初予定していた事業は、やむを得ず中止又は延期した。事業を予定し準備していたのでキャンセルの対応と今後の日程調整が大変であった。（御殿山）
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大が終息するまで、活動の予定が立たない。（本町）
- ・ 予約取り消し連絡が大変だった。ほとんどのイベントが中止、どの様にやれるか難しい。（吉祥寺北）
- ・ まちづくり局の事業は、ほとんどが中止になり、連絡が大変であった。人が、たくさん集まるイベントは出来ないという悩み。（けやき）
- ・ 他団体との共催事業が難しい状況になった。（西久保）
- ・ 行事が、出来ない事と計画を立てられない事。（緑町）
- ・ 事業の中止については、連絡はもちろんのこと参加費の返金等の対応もあり、参加者にも負担をかけてしまったが、落ち着いたらもう一度企画してという言葉もいただいた。（八幡町）
- ・ 今年度40周年を迎えるため、記念行事や事業などどうするべきか、今までの運営委員さんの思いを考えると本当に悩んだ。（八幡町）
- ・ 年間行事計画の開催も、開館日が流動的であったため、各イベント共、準備期間が確保できないことや、3密を避けられないことから、上半期での行事を全て中止した。（桜堤）

(4) 地域における住民の暮らしや団体の活動などに関すること

- ・ コミュニティセンターを拠点にして活動している団体にとって活動拠点がなくなってしまったことで、活動内容等への影響や、コミュニケーションの機会の喪失につながっているという回答が挙げられた。
- ・ そうした利用団体等からは再開を求める声が寄せられている。

主な回答内容（抜粋）

【地域住民の居場所の喪失について】

- ・ 閉館延長の掲示に「閉館が延びるのですか？いつ頃開館するのですか？」等、開館を待ち望む住民の声があった。（吉祥寺東）

- ・ コミセンに居場所を求めて開館を待ち望んでいる方々が少なくないことを感じた。(本町)
- ・ 地域の高齢者から、日頃のコミセンの便利さ、有り難さを再認識したとの反応があった。(吉祥寺西)
- ・ コミセンを早く開館してほしいとの住民からの要望があった。(緑町)
- ・ 用事でコミセンを訪れた時、コミセン近隣の方とお会いしたり、お散歩をしている地域の方と顔を合わせることが何度もあった。みなさん、「コミセンはいつから?」「大変ね。」とお声をかけてくださり、コミセン開館を待っている方が多くいらっした。(八幡町)
- ・ ロビー、児童室での子供たちの遊び場、毎日運動している人たちの運動の場をなくした。(境南)
- ・ 話し合いの機会を持たず課題、懸案事項がそのままになって、解決の意識が途切れたように見える。(境南)

【各種団体の活動・事業の中止・見直しについて】

- ・ 地域団体の活動の場がなくなり困っているとの声を聞いた。(本宿)
- ・ 補助金交付団体（地域社協、老人会、日赤奉仕団等）役員会総会を開催出来ず困っていた。(吉祥寺東)
- ・ 閉館すると、福祉の会、老人会、防災、青少協などの地域団体のセンター機能が停止する。会合は別の場所でも可能だが、3か月以上にもなると、印刷機の使用や会報の整理などに各団体で支障が出たので、事前に申請を受けて週2回の窓口2時間出勤日に合わせて最少人数での利用に制限して対応した。(吉南)
- ・ 地域団体の活動拠点としてのスペース提供ができないことが、申し訳なかった。(吉祥寺北)
- ・ 拠点として使用していた、地域の団体が、不自由であると困っていた。地域福祉の会、地域防災の会など（けやき）
- ・ 毎月定期的（高齢者が多い）に活動している団体が、早く開館を望んでいた。(西久保)
- ・ 拠点を持たない地域団体が活動するための場所としてのコミセンが休館となってしまったため、団体の活動に大きな影響が出てしまった。(協議会としてはコミセンを使用することができ有難かった。) 地域団体より、「コミセンはいつから始まるの」という問い合わせも多く寄せられた。(八幡町)
- ・ コミセンを拠点にしている団体が活動の場を失い、交流（コミュニケーション）の場がなくなったと聞く機会が多かった。(桜堤)
- ・

2. 3月からの長期閉館中に新たに取組んだこと、検討したこと

【ポイント】

- ・ 総会・役員会や、運営委員・協力員間の情報共有について、LINE/Twitter など新たなコミュニケーションツールを活かして、効率的な協議会運営に取り組んでいる。
- ・ 長期の閉館期間を活かして、コミセンの利用者情報のデジタル化やホームページの更新、施設内の修繕・清掃など、利用のしやすさを向上するための取組を新たに始めている例がある。
- ・ 閉館を契機に、既存の事業の見直しや、コミセンの周知と新たな利用者拡大のための新たな広報活動の実施を行う例もある。

(1) コミュニティ協議会の運営に関すること

- ・ 新たな取組として、総会・役員会等の会議体に関して、事前資料の配布による時間短縮や、ウェブカメラ等を利用し2部屋に分けて会議を実施するなど、感染症対策に関する工夫がみられた。
- ・ また、運営委員・協力員のコミュニケーションについても、LINE グループや Twitter を活用した情報共有や意見交換などを行っている例もみられた。
- ・ その他、閉館期間を活かして、協議会の運営に関するガイドライン等を新たに検討するなどの取組を行っている事例もある。

主な回答内容（抜粋）

【総会・役員会等の運営について】

- ・ 運営委員全員で運営委員会を開く為の広さの部屋がない。工夫としてビデオカメラ・テレビ等を使って、二つの部屋で同時に会議をしている。(けやき)
- ・ 会議等は事前に次第や議事録等配布し、当日の会議の中止、あるいは短時間開催とした。開館前に、コロナ感染防止の対応方法について運営委員窓口研修会を開催した。(桜堤)
- ・ 運営委員会について書面でのやり取りの仕組みづくりをした。(境南)

【運営委員・協力員内のコミュニケーションについて】

- ・ 運営委員会は開催せず、LINE のグループを活用して、意見交換、情報の共有をするようにした。(本宿)
- ・ 運営委員の繋がりを大事したい。ホームページの Twitter 活用 (地域の人も見れる)。けやきコミュニティニュース (運営委員特別号) を発行し、運営委員の近況報告、考え等を載せ、想いを共有。(けやき)
- ・ 運営委員会を行えないため、運営委員全員が属している事業部の各部会 (地域事業部、青少年部) のグループラインを作り、積極的に活用した。(ラインを使えない運営委員は個別に連絡) (中央)
- ・ 連絡方法の紙からメールへの移行を促した。(西部)

【新しい取組の検討について】

- ・ 協議会のガイドラインを検討した。(中央)

【その他】

- ・ 正直なところ、特に何も出来なかった。(吉祥寺西)

(2) コミセンの管理に関すること

- ・ 長期の閉館期間を活かし、それまでの利用状況・利用者情報等のデータベース化やホームページ等の更新などを行っている例がある。また、施設内の不用品整理や簡単な修繕の実施、清掃などを行っているという回答があった。

主な回答内容（抜粋）

【管理方法の見直し】

- ・ 昨年末から検討・試行していた、施設の利用状況及び利用申請者の入力とデータ化のために、窓口担当者的入力技術習得の講習と入力フォームの微調整を行った。（吉南）
- ・ 月中は窓口人数も多かったので、施設内の不用品整理と修繕箇所、備品設置位置の見直しなど窓口担当者的の多くの人の目でチェックし、会議室の整理と修繕依頼など行った。（吉南）
- ・ 休館中のコミセン運営・管理について役員間で意見交換を行い、役員の役割分担を再確認した。（吉祥寺西）
- ・ コミセンとして、コロナウイルス対策方法は何か。必要なことを市との連携・コミ研連の決定を踏まえて話し合い。（けやき）
- ・ 毎日の清掃担当の方に、気づいた点、清掃依頼を可能な範囲で依頼した。（吉祥寺北）
- ・ 使用しないため、カビの発生があり、換気扇をつけたりして換気を良くした。（吉祥寺北）
- ・ 三密を避けるため各部屋（会議室、大広間、和室、学習室）の準備、工夫等を検討した。（中央）
- ・ 連絡網でラインやメールも使った。（関前）
- ・ 改修後の開館がスムーズに行えるよう、管理室の整理、物品収納や窓口準備作業を行った、住民への周知に努め、ホームページの更新や玄関掲示をタイムリーに行った。（桜堤）

【開会に向けた準備】

- ・ 6月開館に備えて窓口カウンターのシールド設置などコロナ対応の開館準備。（吉南）
- ・ 開館に向けての感染対策への取組み（消毒液・除菌液などの準備）（御殿山）
- ・ 開館に向けて、利用者さんと窓口担当者が安全であることを考えて話し合った。（吉祥寺西）
- ・ 開館後のレイアウトや感染防止対策（八幡町）

(3) コミセンの事業に関すること

- ・ 新たな事業としては、一部の協議会において広報活動に関して新たな取組（ホームページの充実、地域への広報誌の配布）を行っている例があった。
- ・ また、既存の事業の見直しを行う団体もあった（具体的な見直しの詳細は不明）。

主な回答内容（抜粋）

【新たな取組の検討について】

- ・ 広報活動を検討した。（HPの充実、更新）（吉祥寺北）
- ・ 地域で行われているオンラインの活動への参加や事業について問い合わせ。（さかい親子ひろば・みずきっこ）（八幡町）

【既存事業の見直しについて】

- ・ 実施事業の見直し（関前）

(4) 地域における住民の暮らしや団体の活動などに関すること

- ・ 一部の協議会では、利用団体・地域団体の代表者への声掛け・連絡を行うなど、継続的なコミュニケーションを取っている例がある。また、若年層など新たな利用者を取り込むため長期閉鎖期間を利用してホームページをリニューアルするといった工夫もみられる。

主な回答内容（抜粋）

【利用団体へのサポートについて】

- ・ 当初、（3月中のみ）少人数であれば隣接している御殿山一丁目町会集会所を開放した。（御殿山）
- ・ 掲示板に掲示するとともに、地域団体の代表者に連絡をとった。（西久保）
- ・ ホームページリニューアルを検討しており、若い世代を取り込み新しい地域コミュニティの形づくりが進められるとよい。（境南）

【その他】

- ・ 一日でも早く開館する方向で考えているが、本町コミセンの立地を考えて、開館することで感染拡大につながるのではないかと心配している。（本町）
- ・ 今の段階では、地域団体の活動を考えられなかった。コミセンが開館してからの1～2ヶ月の様子、社会情勢を見ながら、検討すべきであろうかと思えます。（けやき）
- ・ 開館が未定の状態で、何もすることができなかった。（中央）
- ・ 住民間の情報として断片的には入ってきたが、コロナ自粛でほとんどの住民や団体は、活動そのものを中止していた模様。（桜堤）
- ・ 協議会がではないが、PC 同好会（登録サークル）さんがリモートおしゃべり会（LINE・ビデオ通話）を行っていた。「境おやこひろば」や「すくすく泉」の方々がオンラインの親子ひろばや小学生の朝の会などを行っていた。（西部）

3. 閉館中の経験を踏まえ、今後、取り組みたいこと、検討したいこと、市や研連への提案

【ポイント】

- ・ 運営に関して新たに取り組みたいことは、「感染症対策」「ウェブ会議などによる効率的な協議会運営」「運営委員・協力員の人員体制の強化」などが挙げられた。
- ・ 管理については、「予約システムの導入」「運営委員・協力員の管理に係る負担の平準化・役割分担」「施設の保守・点検の充実」に取り組みたいという回答があった。
- ・ 事業内容については、コロナ禍を踏まえて既存事業の見直し（小規模化や、オンライン開催等）の必要性が指摘されている。また、市への意見・提案として、コロナ禍での事業企画・実施に関する助言やモデル事業の実施が挙げられている。
- ・ また、今後に向けて、地域の関係団体と意見交換しながらポスト・コロナにおけるコミュニティのあり方について検討したい、という意見が挙げられた。

(1) コミュニティ協議会の運営に関すること

- ・ 協議会の運営に関して今後取り組みたいこととしては、感染症を含めた緊急時への対応強化（体制整備を含む）や、ウェブ会議等の新たなコミュニケーション方法による協議会運営の効率化・円滑化、運営委員・協力員の人員体制の強化などが挙げられている。

主な回答内容（抜粋）

【感染症を含めた緊急時への対応強化について】

- ・ 常に非常時を想定したコミセンの運営をはかり具体策、備蓄品の充実、準備を今後に伝えたい。（吉祥寺東）
- ・ 非常時連絡体制の強化・充実（吉祥寺北）

【コミュニケーション方法について】

- ・ 各コミセン、パソコンを使用しているのだから、研連、その他の事もウェブ会議を積極的に取り入れていったらどうか？（本宿）
- ・ ①まずは運営委員メーリングリストの整備とメール連絡及び返信の習慣化と整備、②将来的にはリモート化……無理かな（吉南）
- ・ 書類添付可能なメール等を利用した連絡手段の利用。Zoom等を利用した打ち合わせの実施。（八幡町）
- ・ 全員がメールで連絡できるようになるといい。（西部）
- ・ コミュニティ協議会が開催する会議などでは、会議資料を事前配布して、会議時間の短縮を図る。会議資料の作成は、役員だけでなく、運営委員の協力を仰ぐ（他薦自薦/輪番制？）（桜堤）

【運営委員・協力員の体制強化について】

- ・ 運営委員と窓口要員の確保（御殿山）
- ・ ボランティア活動の限界を感じる。（特定の人への活動集中）（吉祥寺西）

【地域コミュニティとのつながりについて】

- ・ 地域住民、地域団体の方との意見交換会を増やす。（吉祥寺北）

【開館後の事業の実施について】

- ・ 非接触型運動は緩和する。子供ルームは8月から人数を限定して解除してよいのでは。おもちゃ

などを使えないようにする。貸し出しおもちゃ限定して貸す。(けやき)

【市への意見・提案について】

- ・ 運営委員の感染のリスクを市は考えて欲しい。緊急事態宣言が出ている時は、運営委員が集まって作業をしないで済む方法を考えて指示を出して欲しい。(本宿)
- ・ 休館をする場合は、短期で延長を何回もするような事はやめて欲しい。1か月単位くらいにして欲しい。(本宿)
- ・ 市、研連は、コミセン役員・運営委員の確保方策をアドバイスし委員会を設置して欲しい。(吉祥寺西)
- ・ 市は「16 コミセン共通」にこだわりすぎず、ある程度は自主三原則に則った運営を尊重してほしい。(中央)

(2) コミセンの管理に関すること

- ・ コミュニティセンターの管理に関して今後取り組みたいこととしては、感染症対策の充実、利用予約に関する新たな管理システムの導入(スマホ、PC、電話等での申し込み可)、運営委員・協力員間の負担の平準化・役割分担、施設の保守・点検のより一層の充実が挙げられている。
- ・ また、市への意見・提案としては、コミセンの状況や意見・ニーズを踏まえた柔軟な支援や、コロナ禍でどのように活動を行うかに関して情報提供や助言を行うことが挙げられている。

主な回答内容(抜粋)

【感染症を含めた緊急時への対応強化について】

- ・ 感染症に対する勉強会(本町)
- ・ 危機管理に取り組む姿勢が大事。温度差を感じる。(けやき)

【施設の管理システムの構築について】

- ・ 利用予約は、スマホ・パソコン・電話等で申込できるように管理システムを構築して欲しい。地域への告知掲示板を増設したい。(吉祥寺西)

【運営委員・協力員の体制強化について】

- ・ 閉館時の管理について、一部役員に大きな負担がかからぬような体制づくりと育成。(八幡町)

【施設の管理・修繕について】

- ・ 施設換気設備の充実、改善。窓にはすべて網戸を設置すべき。(吉祥寺北)
- ・ 閉館中でも清掃業者が毎日清掃していたはずだが、閉館前にはなかった蜘蛛の巣やカビがあり、開館準備の時に運営委員が清掃を行った。市は清掃業者に定期的に清掃状況の確認をしてほしい。(中央)

【市への意見・提案について】

- ・ 地域の実情や感染者の状況を踏まえて、それぞれのコミセンの意見をよく聞いて柔軟に対応して欲しい。・各コミセンの現場(運営委員)の声を尊重して欲しい。(本宿)
- ・ コミセン単独で結論が出せない事が多い。(西久保)
- ・ コミセンがこのコロナ感染の状況下で活動を行う上での助言を随時いただきたい。(桜堤)
- ・ 役員手当・謝礼の創設。(吉祥寺西)
- ・ 市から、嘱託職員のコミセン配置を切望する。(吉祥寺西)

(3) コミセンの事業に関すること

- ・ 開館後の事業のあり方について、これまでの事業内容を見直していく必要性を多くの協議会が指摘している。具体的には、大規模ではなく小規模（少人数）での事業実施やオンライン事業の企画などが挙げられている。
- ・ また、市への意見・提案としては、コロナ禍でのコミュニティ活動の参考になるような情報提供やモデル事業の実施などが挙げられている。

主な回答内容（抜粋）

【開館後の事業の実施について】

- ・ 主催事業を今年度中に全て実施できなかった場合、次年度に開催を延期したい。事業費の未消化分を次年度の事業費予算に繰り入れることを希望する。地域コミュニティのニーズを念頭においた事業企画の更なる検討。（吉祥寺東）
- ・ 今年度4か月間の休館と7月事業中止により、事業予定の再検討を組み立てたい。（吉祥寺西）
- ・ 事業規模の縮小等の検討。イベントは外ですか、人数を縮小するか。（吉祥寺北）
- ・ 今後の事業の見直し（内容、延期、中止）を検討したい。（西久保）
- ・ 人数制限がある。大掛かりなことはできない。そのため、コミュニティルームで人生相談会や、ギャラリーを使い、公募して展覧会をしたらどうか。入場者が密にならないようにすればできるし、ちょっとしたつながりづくりになるのではないか。（けやき）
- ・ 小さな事業でも、運営委員が当番制（自主的）で、交代で行なう。具体的には、花市、野菜市、ハンギングバスケット（寄せ植えなど）のコンテスト。（けやき）
- ・ オンライン事業の企画、実施。（コロナに限らず新しいコミュニティづくりの形として）、ソーシャルディスタンス、三密を避けた事業の企画提案。（八幡町）
- ・ 主催事業を今年度中に全て実施できなかった場合、次年度に開催を延期したい。事業費の未消化分を次年度の事業費予算に繰り入れることを希望する。地域コミュニティのニーズを念頭においた事業企画の更なる検討（関前）
- ・ 不特定多数の方を対象にした事業ではなく、3密を防いで開催できる少人数向けの事業を検討したい。（桜堤）

【人材育成について】

- ・ ホームページをより有効に使うため、迅速な告知と内容変更を複数人間ができるように人的養成をする。（吉南）

【地域コミュニティとのつながりについて】

- ・ 地域団体の方と意見調整を図りたい。With コロナ状況下、何ができるか検討したい。（吉祥寺北）

【市への意見・提案について】

- ・ コロナ感染防止対策が、いつまで続くかで行事が出来ないので、早く市の活動の見本が見たい。（緑町）

【その他】

- ・ 7月初旬になっても感染が広がっている状況では、今後の見通しは立たない。（本宿）

(4) 地域における住民の暮らしや団体の活動などに関すること

- ・ 地域における住民の暮らしや団体の活動に関して新たに取り組みたいこととして、地域の関係団体が継続的に活動できるよう活動場所を提供し続けるとともに、ポストコロナにおける新たなコミュニティづくりについて地域団体と意見交換しながら検討を進めることなどが挙げられている。

主な回答内容（抜粋）

【開館後の事業の実施について】

- ・ 元に戻すのではなく新しい生活の方向を策定してはどうか。斬新な案は出てないですが現代のツールを活用すべき。（本宿）
- ・ 感染症対策による長期休館(入館禁止)となった場合の事務局機能をどうするのか。コミュニティを維持するために不可欠な団体を特定し部分的に最低限の利用を許可することが必要と考える。（吉南）
- ・ 今の状況が落ち着いたら、地域フォーラムを地域の諸団体と協力して開催し、新たに、まちづくりのあり方を検討していけたらと思う。（けやき）
- ・ それぞれの団体がそれぞれ活動するだけではなく、青少協地区委員のグループ LINE のように日ごろから横に繋がり、情報を共有することが重要と考えます。そのためにコミセンではどんなことができるか、どんな場を作れるかを検討していきたいと思います。（八幡町）
- ・ この間の団体・サークルさんたちの活動を調べてみたい。（西部）
- ・ 地域の方々がコロナ対策をしながらも、必要な集まりや顔合わせで気軽に使っていただけるようコミセンを活用していければよいと思う。（桜堤）

【地域コミュニティとのつながりについて】

- ・ 補助金交付団体は団体の活動には更に協力して行きたい。地域在住・在勤者の活動への各種支援策の研究（吉祥寺北）
- ・ コミセン協力団体（福祉の会、日赤奉仕団、青少協等）には、このような状況であっても場所提供できるような体制を検討したい。（中央）
- ・ 今回の閉館中に「コミセン電気がついているけど大丈夫?」、「ゴミが置かれてる」など、近隣の地域の方より運営委員への連絡をいただき対応することが何度かありました。日ごろからの顔が見えるお付き合いを今後も大切にしていきたいと思います。（八幡町）

以上